



第2回定例会

大竹市議会YouTube

名前横の時間はyoutubeの動画の
一般質問開始時間です。



一般質問

8名が登壇

【6月10日】

細川 雅子

(3:42~)

- 大竹市文化財保存活用地域計画を作りましょう

小出 哲義

(47:07~)

- 事故や犯罪のない安全・安心な地域づくりのために

中川 智之

(1:23:21~)

- 高齢者の孤立を予防するために聴覚補助器等の積極的な活用の支援について

中野 友博

(1:40:38~)

- 関係人口で拓く大竹市の未来について

日城 究

(2:28:21~)

- 楽しい授業で不登校に抗う

岡 和明

(3:19:37~)

- 観光文化に目を向けよう
- 環境の悪い道の駅ができる恐れ
- 新小方橋では自転車の安全確保を

山代 英資

(4:03:21~)

- 下瀬美術館との観光施策の連携について
- 本市の庁内ネットワークの状況について

【6月11日】

豊川 和也

(0:47~)

- 『モルックのまち大竹市』を目指しませんか
- 本市の防災リーダーによる交流を増やしませんか
- 民生委員のなり手不足の解消策をお尋ねします

問

大竹市文化財保存活用 地域計画を作りましょう



ほそかわ

まさこ

細川 雅子

本市は令和7・8年の2年間で観光振興計画を策定する予定です。観光振興は関係産業の活性化に加え、本市の自然・歴史、文化の価値を高め市民のアイデンティティの醸成にもなると考えます。一方、観光に重点を置きすぎると、文化財や歴史的に価値のある市民の財産の保護や継承が後回しになる懸念もあります。国も文化財保護法の改正（2018年）をし、地方による文化財の保存活用に対して財源も含めた支援をしています。これらの背景をふまえて質問します。

①観光振興に伴う文化財保護への懸念

②文化財の現状と保存、継承についてのお考え

③観光振興計画と文化財保存活用地域計画の同時策定のお考え

答

①文化財の活用を図る中で、損壊や汚損、紛失等の事案が懸念されますが、現在、そのような事案は発生していません。今後、文化財保護に必要な対応を状況に応じて検討します。

②文化財は、市指定重要文化財13件を指定し、国指定特別天然記念物1件、国登録有形文化財1件、県指定天然記念物1件、県指定名勝1件です。手すき和紙作業所の修繕工事、亀居城天守台の天端補修工事や文化財説明看板の改修など、文化財の保存・継承に努めます。

③「文化財保存活用地域計画」の作成は、相当な時間と労力が必要です。まずは、県が作成した「広島県文化財保存活用大綱」の基本方針を踏まえ、文化財の保存・活用施策を進めます。



公園内の探知講堂のモニュメント



一般質問ちゅうのは、議員が市政の課題を自由に選んで、本会議で市長に見解を聞くんよ。議員1人の持ち時間は30分もしくは60分なんじゃ。



こいで てつよし
小出 哲義

事故や犯罪のない安全・安心な地域づくりのために

問

第2期大竹市まちづくり基本計画が策定されました。人口減少と上手に付き合いながら、まちの機能を維持し、活力を損なわない持続可能な地域社会を構築することを趣旨としています。

広島県警察本部のまとめでは、近年刑法犯の認知件数は増加傾向にあり、一方、県内の防犯ボランティア団体数及びその構成員数は減少傾向にあることが報告されています。各団体共に構成員の高齢化と人員の確保、モチベーションの維持などの課題を抱えています。本市における課題と取り組みについてお伺いします。

また地域防犯力の底上げのために防犯カメラ等設置費の補助制度や、防犯カメラ搭載型自動販売機設置など、目に見える形で防犯ボランティア各員への力強い後方支援をお願いします。

答

地域の防犯については、高齢化などによる担い手不足に加え、特殊詐欺など多様化する様々な犯罪をいかに防げかが課題です。

本市では広報紙や防災行政無線での注意喚起などの「意識づくり」、警察署や市防犯連合会と連携した防犯講習会開催などの「地域づくり」、公共施設への防犯カメラ設置や迷惑電話防止機能付電話等の購入費補助、自治会へ防犯灯設置費用の補助などの「環境づくり」に取り組んでいます。

個人の防犯カメラ設置に対する補助制度については、他自治体の事例や効果を確認し、検討します。

防犯カメラ搭載型自動販売機の設置については、同じ場所を撮影する防犯カメラが存在しないなどの条件をクリアする候補地があれば、既存の自動販売機の更新時期に設置の検討が可能です。



高齢者の孤立を予防するために聴覚補助器等の積極的な活用について



なかがわ ともゆき
中川 智之

問

高齢化や単独世帯の増加に伴い、社会的孤立が高まっています。なかでも難聴により他人とのコミュニケーションがうまくいかず、うつや社会的に孤立する傾向が強くなる場合があります。それには補聴器の使用が有効ですが、補聴器以外にも、マイクで収集した音を増幅して外耳道に送る気導補聴器や、耳の軟骨を振動させて音を伝える軟骨伝導補聴器なども有効であり、選択と活用 of 環境整備が必要です。本市の高齢者難聴の実態と社会的影響の認識、補聴器購入費補助の導入に関する検討状況と今後の方針について伺う。

また庁舎の受付に聴覚補助器を設置することにより、利用者のアクセシビリティを高め、啓発にもつながります。聴覚補助器の窓口設置の考えはないでしょうか。

答

市内の高齢者の実態については、市内すべての地区ではありませんが、民生委員のご協力により高齢者実態調査を行っており、ある程度の状況は把握しています。高齢者の単独世帯には、社会的孤立、健康管理の問題、経済的負担、情報不足、防災時の脆弱性などの問題に直面している方もいます。

加齢に伴い耳が聞こえにくい状態になれば、しだいに外出を避け、ひきこもりがちになり、認知症やフレイルのリスクが高まる可能性があることは、否定できません。

また、加齢性の難聴は、個人の状態により本人や家族が把握できていないものもありますので、市内にどのくらいの方が潜在しているのかの把握は難しいと考えています。

本市では、高齢者に対する補聴器購入費用の補助は行っていないが、県内・近隣では行っている自治体もあります。

補聴器購入の補助や聴覚補助器の窓口設置については、県内・近隣の状況を財源も踏まえ、調査・研究します。





なかの ともひろ
中野 友博

関係人口で拓く大竹市の未来について

問 人口減少が進む今、まちの活力を保ちながら持続可能な地域社会を築くには、「関係人口」の創出が鍵になると考えます。地域外に住みながらも大竹市に想いを寄せ、関わり続けてくれる方々を増やす視点から、「ふるさと納税」と「観光振興計画」の2点について取り上げました。

ふるさと納税は、返礼品による寄付だけでなく、地域の課題や取り組みに共感して寄付していただく、応援の仕組み“として進化しています。そこで、本市としての制度の今後の活用方針や、市民や事業者との関係性強化の可能性について伺います。

また、観光振興計画は、観光資源の磨き上げや人の流れづくりを通じて、交流人口から関係人口への発展を促す重要なツールです。観光とふるさと納税の連動、現地決済型の導入、外部人材の登用といった施策について、市としてど

答

のような考えをお持ちでしょうか。

観光振興計画は、市だけでなく観光産業に関係する企業・市民が方向性を共有し、同じ目標に向かって連携して取り組むための指針となるものを策定したいと考えています。

観光とふるさと納税の連動としては、施設や体験、サービスをパッケージとして魅力的な返礼品として提案できれば、新たな観光客の増加にもつながりますので、そうした視点を持ちながら事業を進めたいと考えています。

現地決済型のふるさと納税については、寄附者や事業者にとって利便性が高い方法ですが、十分な検討ができていないので、今後、研究します。

外部から人材を招へいするような国の制度もありますが、具体的な目標や業務を定めなければ、活用できないため、まずは課題を整理する必要があります。



新たな観光拠点となっている
下瀬美術館



じついき きわむ
日域 究

楽しい授業で不登校に抗う

問 不登校が全国的に増え、大問題です。しかし文部科学大臣までが学校を休んで良いと発言、対策は迷走しています。嫌なこともあるけど楽しいこともあるのが学校です。楽しさは重要です。そこで教育長に伺います。ご自身の小学生時代での楽しかった授業、教員時代の盛り上がった授業があればご紹介下さい。私自身の楽しかった授業の思い出は小3のとき、先生が黒板に書いた問題を各自ノートに書いて競争で教卓まで持って行き、順番を付けてもらったものでした。よくやっていました。どかどかと木造の教室を走り回って大騒ぎでした。

スポーツでも同じですが、皆んな練習よりも試合が好きです。ね。人間のその様な性質を生かした授業、今もやっていますか。

答

義務教育段階の学校は、児童生徒個人の能力を伸ばしつつ社会における自立性や基本的資質を培うなど、極めて大きな役割をもっています。

児童生徒が学校へ行きなくなる魅力ある学校づくりを目指すとともに、いじめ、暴力行為、体罰等を許さないなど、安心して教育を受けられる学校づくりを推進することが重要であり、魅力ある学校づくりが『楽しい学校』につながると考えます。

楽しかった小学生時代の経験は、他学級とのドッジボールやサッカーの対抗戦です。多くの仲間との関わりを通して、たくさんこのことを学びました。また、教員時代に盛り上がったと感じた授業は、生活科の「楽しく遊ぼう」の授業です。グループで「遊び」を考えさせ、表現するという内容でした。

市教育委員会では、個別最適な学びの実現のため、一人一人の進度や興味・関心などに合わせた教材や学習方法などの選択、きめ細かな学習指導を行うなどの授業改善を行っています。

引き続き、学校が楽しくなるような取組により、不登校児童生徒の発生防止に努めます。



おか かずあき
岡 和明

観光文化に目を向けよう

問 令和5年に大竹は県内で大崎上島町、熊野町、海田町に次いで観光客が少なく、しかも「観光」の目的別1位（大規模公園等）に晴海臨海公園の市民利用を含み、3位（海水浴等）はフェリー乗船者数がその内容です。今後、観光文化政策が不可欠です。

答 今後、令和7年度、8年度の2年間で、文化財も含めた観光資源の現状調査等を行った上で、本市の観光方針等を定めた観光振興計画を策定する予定です。



活用の余地が大きい
亀居城天守台

環境の悪い道の駅ができる恐れ

問 立地検討業務報告書（平成30年3月作成）では、駐車面積の7割近くを大型車スペースとする想定がされています。奥長の小方中跡地がトラックの荷待ち場になる環境の悪い道の駅になります。

答 駐車場面積の数値は、平成29年度の立地検討業務を行った際に、国道2号の交通量に応じて国が示した算定式で算出した道路利用者への休憩サービス提供のための大型及び小型車両の駐車場台数です。国に登録申請する道の駅を整備する場合、トラックなど大型車両の休憩のための駐車スペースも必要になります。

新小方橋では自転車の安全確保を

問 架け替え後の小方橋は路側帯の幅が肩幅ほど（50センチ）の設計で、自転車の安全が確保されていますか。

答 地方港湾大竹港小方地区の臨港道路は、片側歩道が設置され、車両と歩行者が分離され、以前よりも自転車の安全な通行が確保されます。なお、改修は、道路構造令の基準に基づき設計されており、これまでよりも広い幅員構成となっています。



やましる ひでただ
山代 英資

下瀬美術館との観光施策の連携について

問 昨年の市長答弁で、大竹市は観光産業が弱いとの指摘がありました。しかし、下瀬美術館開館で状況は大きく変化しております。開館以降、来館者が10万人を超え、ベルサイユ賞受賞と追い風が吹く今、この好機を一過性のものとせず、訪問客を生かす施策が重要と考えます。市の具体的な取り組みやコラボレーション等の活用策について考えを伺います。

答 市では、市広報への特集記事の掲載、近隣商店との連携、ルート案内などを行っています。また下瀬美術館では手すき和紙のワークショップや、市内の複数の特産品事業者とミニマルシェを開催したと伺っています。今後策定する観光振興計画で来館者が少しでも長く市内に滞在できる施策等を検討します。

本市の市内ネットワークの状況について

問 市内ネットワーク通信のボトルネックとなっていた基幹通信機器の更新後の改善状況、市内の無線化の進捗状況を教えてください。また、昨年度から取り組んでいる情報化推進計画の2年目の具体的な市民サービス向上や事務効率化の進捗状況を併せて伺います。

答 通信機器の更新後は、通信負荷数値が減少し、市内ネットワークの環境も一定程度改善されました。市内の無線化の状況は、整備が令和6年度末に完了し、今年度から順次運用しています。

また、書かない窓口の推進やRPA（※）の導入など、市民サービス向上や職員等の業務負担の軽減につながる取組を進めています。

（※）RPA: Robotic Process Automation の略。
各種定型作業を自動化する技術。





とよかわ かずや
豊川 和也

『モルックのまち大竹市』を
目指しませんか

問 日本全国でモルックの人気が高まっており、老若男女が楽しめる競技として注目されています。

答 本市でも5月に第1回市民インドアモルック大会が開催され、盛況でした。これを機に「大竹市といえばモルック」というイメージづくりを進めるべきと考えますが、市のお考えをお聞かせください。

本市の防災リーダーによる
交流を増やしませんか

問 現在、防災リーダーが公式に集まる機会は年1回のフォーアアップ研修会のみです。

答 引き続き、市総合型地域スポーツクラブを中心に、関係団体などと連携しながら、モルックをはじめとする二ユーススポーツの普及促進に取り組みます。

研修会では「意見交換の場をもっと増やしてほしい」との声もありました。防災リーダー同士が情報共有や意見交換できるセミナー等の機会を増やすべきと考えますが、本市のお考えをお聞かせください。

答

防災リーダーの活動は自発的な展開を期待し、意識啓発や取組を実施しています。交流の場も自発的・主体的な意識で行うことで実効性が高く、地域にも好循環を生むと考えます。

民生委員のなり手不足の
解消策をお尋ねします

問

民生委員の欠員地域があると同っています。地域住民への影響は大いと考えます。現在、本市では担い手不足解消に向けてどのような対策を講じているのかお聞かせください。

答

担い手不足は、すぐに解消するものではありませんが、「まるっと大竹」設置による窓口対応や事務の効率化など委員の負担軽減に努めます。

第2回市議会(定例会) 主な議案の審議結果表

	議 案 な ど	北 地 範 久	中 野 友 博	豊 川 和 也	山 代 英 資	岡 和 明	小 出 哲 義	末 広 天 佑	藤 川 和 弘	中 川 智 之	小 田 上 尚 典	西 村 一 啓	山 崎 年 一	日 域 究	細 川 雅 子	寺 岡 公 章	審 議 結 果
議案第 42 号	大竹市三倉岳県立自然公園休憩所設置及び管理条例の一部改正について	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 43 号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 44 号	大竹市水道事業に係る布設工事監督者及び水道技術管理者に関する条例の一部改正について	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 46 号	財産の取得について（大竹市立小・中学校学習用端末機器）	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 47 号	市道路線の変更について	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 48 号	令和7年度大竹市一般会計補正予算（第2号）	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 49 号	令和7年度大竹市水道事業会計補正予算（第1号）	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 50 号	令和7年度大竹市工業用水道事業会計補正予算（第1号）	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第 51 号	令和7年度大竹市下水道事業会計補正予算（第2号）	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

この表は本会議で採決のあと、本人の申告にもとづいて作成したものです。 一：議長 ○：賛成 ●：反対 欠：欠席 棄：棄権